

十年一昔 (その二十八)

—NHK受信所跡界限—

給食センター小沢所長寄稿



栗山方面から下りた県道が、鳥喰に入ると左に大きくカーブしますと、鳥喰下のバス停留所です。ここからやや左前の田圃の中を眺めますと何処か有名都市の名称を用いた建物の屋根が並びその先は松林に続いていきます。更にその奥にはブロックと木造の建物が一面に生い茂った薄等の雑草の中に建っています。窓枠や扉も取外され屋根等も朽ち果

たという本当に教育を極めた場所なのです。昭和三十二年十月に此々にNHK電波受信所が創設されてから十ヶ年余りは、NHK向の海外電波は途て此々に入り、また、直通電話で本局に連絡する等の活躍を続けていたのです。特に人工衛星が始めて打上げられた頃は衛星の発信音をキャッチして、その録音所を世界に報しNHK横芝受信所の名は全国に鳴響いたものです。そして、見学者も多くなり、多忙に追われる職員が非鳴を上げてたというエピソードも残っています。本紙ふるりの散歩路で此の受信所を紹介の折「見学される場合は予め都合を問い合わせる様に」と附記したのもその頃でした。

其後、周辺の状況も変化し電波の受送にも支障がきたと数年前長野県方面に移ったので、受信所の施設は外観的にはマイクローエーブ用の鉄塔の他は建の電機室と教室を二つ併せた程の録音受信室らしい建物と用務員室という簡素なものでした。しかしその周辺には十数本のアンテナ塔が林立していたがこれは全部木柱で電波が流れてしまいうから」とのことでした。

受信所の構内は、比較的湿地帯で庭や広場には毛氈苔や石持草が郡生しているのを見かけました。受信所が移転した翌年の夏に千葉大の学生が調査に来たことがありましたが既に荒らされていて群生しているのは僅か百坪足らずの範囲になっていました。その群生も本稿取材のため訪れた時には、その地域もトラクタの輪轍や人に踏み荒されて石持草も毛氈苔も殆んど姿を消していました。そして受信所も当時の鉄塔や木柱も姿を消して残骸だけの建物の壁に掛った看板だけが、当時の栄枯を忍んでいるように見えました。○写真、上は華やかに活躍を続けていた昭和三十九年撮影のもので、バラボラアンテナが筑波山頂に向いています。下の建物には、ヨーロッパ向け、アジア向け等数本のNHK本局との直通電話が加設されていたのです。下は今年の三月撮影のもので建物はすっかり荒れ果ててしました。NHK報道局外国放送受信部横芝分室(写真右上)という看板がまだかかっています。

国保

加入脱退届は早目に

最近、国民健康保険と社会保険との出入りが多く、手続が遅れがちになって、そのため、二重に保険税を負担したり、又どちらも資格を失って全額自費で治療したり、効力のない保険証を使用して還付請求されるような例が多く見受けられます。このようなことがないように異動があったときは、必ず十四日以内に役場住民課窓口へ保険証と印鑑を持参して、手続きを済ませて下さるようお願い致します。

▼加入届をするとき

- ①他の市町村から転入するとき
- ②加入届をするとき
- ③死亡したとき
- ④生活保護が開始されたとき
- ⑤その他届出をする場合

▼脱退届をするとき

- ①住所、氏名等が変わったとき
- ②世帯主を変更したとき
- ③他人の行為により起きた疾病で受診するとき
- ④他の市町村へ転出するとき
- ⑤他の社会保険に加入したとき

民具保存に

ご協力を

社会経済の発展に伴って生活様式もかわり機械器具文明も高度化してまいりました。そのため、私達の祖先が残した伝統的な風俗習慣をも急変させ、日常生活の必要性から創造、工夫された生活文化がしだいに失われてゆく現状です。

そこで、町教育委員会では、その保護対策に万全を期するため、民俗資料の保存に努めることになりました。これらの貴重な文化財の保全をはかって生活文化の推移を知り、永く後世に引継ぐため、町民一人一人に文化財を大切にする気持をもっていただきたいと思ひます。近く各部落にお伺いして古くから伝わってきた民具(農機具類)の収集を始めることになりましたので、格別の御協力をお願いします。

